



ヨガで汗を流す参加者

高齢者の健康寿命延ばそう 岩戸いきいき体操クラブ

高齢者などの健康寿命を延ばすことを目的に、昨年4月に岩戸地域センターを拠点に発足した岩戸いきいき体操クラブ（上遠野秀夫代表）が対象地域を広げ、今年4月から南部地域センターでも毎週水曜日に活動を始めた。

同クラブは、介護予防のため住民やボランティアが主体になって講師などの指導で定期的に体操などを行う「通所型B」と呼ばれる団体であり、市と共催で、地域包括支援センターこまえ苑、社会福祉協議会の支援・協力を得ながら活動している。おおむね65歳以上の人が利用でき、地域包括支援センターこまえ苑が担当する岩戸北、岩戸南、駒井町、猪方70～80代を中心に約100人の会員がいる。同会の体操は講師が指導して軽めのヨガやストレッチを中心に、活動日時は南部地域センターは毎週水曜日の午前9時30分（C）と10時45分（D）、岩戸地域センターは毎週金曜

日午前9時30分（A）と10時45分（B）の4クラスで複数回参加できる。会費は月額2,000円で随時申し込みを受け付けている。

問い合わせは ☎090-2151-1060上遠野さん。

外国人のスピーチ大会 8人が日本語で意見発表

狛江市国際交流協会主催の第20回外国人による日本語スピーチ大会が3月22日回と3月22日回に現地などで開かれ、延べ31人の市民が参加した。

市内には5カ所の樹林地があり、そのうち市が所有する3カ所はアドプト制度として市民がボランティアで清掃や保全活動などを行っている。

中和泉樹林地は約933㎡で、環境を守るため市と協働して活動するワーキンググループのひとつ「生物多様性ワーキンググループ」（林健彦代表、会員14人）が令和5年から毎月第4日曜日に生きもの観察と環境整備活動を続けている。これまでに下草刈り、在来植物の名札付けや支柱立て、落ち葉ため作り、樹木調査などを実施した。

今回のワークショップには狛江駅前の弁財天池特別緑地保全地区市民の会や他の公園でアドプトを行っている市民なども参加、東京農業大学非常勤講師の栗原国男さんを招いて樹林地で現状の観察や作業を行った。次いで西河原公民館で意見交換を行い、①樹林地をエリアに分けて特性に合った管理をする②在来植物の保全③昆虫が生息できる環境作り④観察会の開催などの意見が寄せられた。



スピーチコンテストの参加者

24日に3年ぶり市民囲碁大会

日本棋院狛江支部（渡辺卓支部長）が24日回午前10時から午後4時までこまえみらいテラスで市民囲碁大会を催す。

3年ぶりに開く今回の大会は8級以上の人が対象で定員は先着40人。1日回～8日回に電話（午後1時～5時）またはEメールで申し込む。参加費は1,200円（当日会場で納付）。同支部は昭和48年に囲碁愛好家の呼びかけで結成された。現在は60代から80代を中心に小学生から90代までの幅広い世代の会員約40人が、毎週日曜日午後こまえみらいテラスで対局を楽しんでいる。随時会員を募集しており、入会金は1,500円、月会費は900円（子どもは半額）。



対局する会員

問い合わせ・申し込み ☎090-6017-4450渡辺さん、Mkmtkkoizumi@jcom.home.ne.jp小泉さん。

長賞各1人のほか、その他の発表者に優秀賞が贈られた。

中和泉樹林地の今後考える ワークショップを開催

伊豆美神社北側の中和泉樹林地の保全や管理について考えるワークショップが2月22日回と3月22日回に現地などで開かれ、延べ31人の市民が参加した。

市には5カ所の樹林地があり、そのうち市が所有する3カ所はアドプト制度として市民がボランティアで清掃や保全活動などを行っている。

中和泉樹林地は約933㎡で、環境を守るため市と協働して活動するワーキンググループのひとつ「生物多様性ワーキンググループ」（林健彦代表、会員14人）が令和5年から毎月第4日曜日に生きもの観察と環境整備活動を続けている。これまでに下草刈り、在来植物の名札付けや支柱立て、落ち葉ため作り、樹木調査などを実施した。

今回のワークショップには狛江駅前の弁財天池特別緑地保全地区市民の会や他の公園でアドプトを行っている市民なども参加、東京農業大学非常勤講師の栗原国男さんを招いて樹林地で現状の観察や作業を行った。次いで西河原公民館で意見交換を行い、①樹林地をエリアに分けて特性に合った管理をする②在来植物の保全③昆虫が生息できる環境作り④観察会の開催などの意見が寄せられた。

同会では出された意見を参考にして生きものが豊かな森作りを目指すとともに、今後もワークショップを開催するという。

問い合わせは Mkenyupd6@yahoo.co.jp林さん。



樹林地の観察をする参加者

FlowerShop花小屋

FlowerShop花小屋は花束やアレンジメントなどを得意とする生花店。店内には様々な季節の切り花をはじめ、華道に使う木の枝、プリザーブドフラワー、ドライフラワー、スワッグなどがある。また、供花、誕生会や発表会などで贈るブーケ、慶弔で使うフラワーアレンジメントなど、希望に応じて制作し、花の

季節の花の多彩な楽しみ方伝える 花束をはじめ様々な希望に対応



関口さん

☎3430-4939 和泉本町3-8-1グレースKI1階
営業時間=午前10時～午後6時。火曜日休み

Start & Challenge 11団体に市民公益活動事業補助金を交付

令和8年度狛江市市民公益活動事業補助金プレゼンテーション及び選考会が2月28日回こまえみらいテラスで実施され、選考の結果、11団体に補助金の交付が決まった。

交付されるのはチャレンジ補助金が「わたしたちはここにいるよプロジェクト」「ハルのキに。」「狛江マラソンフェスティバル実行委員会」「狛江 RIVERSIDE JAZZ実行委員会」「狛江でクラシック企画委員会」の5団体、スタート補助金が「狛江子どものこれからを考える会」「狛江こども俳句の会」「LoopScape Commons」「ココット!」「狛江映画人の会」「ASMOスポーツコミュニティ」の6団体。

子育て中の親子がふれあう場を目指す

「子育て親子のふれあいの場づくりを」と13日回午前9時45分～10時45分に緑野小学校KoKoAで親子向けイベント「ここっと×ベビー・キッズマッサージ」が開かれる。

様々な楽しみ方を伝えている。

オーナー店長の関口敬子さん（75）は、子どものころから花が好きで、華道を習い、生け花の師範免許やフラワーアレンジメントの資格も取得した。結婚後は専業主婦だったが、40代後半になって子育てや家事から解放され、「社会と関わりを持っていない」ことに焦りを感じ、47歳の時、世田谷区桜丘の自宅駐車場に小屋を建て「花小屋」という店名で花の販売を始め、ネット販売も行った。その後、自宅近くや川崎市にも支店を開き、一時は数軒の店を一人で切り盛りした。そうした折、現在の場所にあった花屋の経営者から頼まれて、平成20年に店を引き継ぐとともに、順次他の店を閉め、狛江店の経営に専念している。

関口さんは花の販売だけでなく、生け花教室の花の準備や寺の本堂などの生花の配達をしており、彼岸や施餓鬼の日は境内で花の移動販売をしている。また、狛江第一小学校の入学式や卒業式などの式典で舞台の花を生けており、日本の伝統文化を学ぶ5年生の希望者に生け花を指導したほか、狛江市民まつりで催す華道体験の材料を提供している。

関口さんによると、花屋は卒業・入学シーズンの3月と4月上旬や、「母の日」がある5月が最も忙しいという。「母の日」の頃は店を訪れる父と子が約200人も来店するといい、子どもの小遣いでも買えるミニブーケを多く準備するなどの配慮をしている。

関口さんは「花にはもらった人を笑顔にする力があるので、気軽に利用してください」と話している。

子育てグループ「ココット!」（ポフルヴェ愛弓代表）が、令和8年度狛江市市民公益活動事業補助金スタート補助金を受けて開催。同会は昨年10月、子育て中の母親であるポフルヴェさん、バック彩織さん、松崎玲衣さんが、子育て中に地域の人に支えられた経験から、多世代が交流できる場を設けたいと結成した。「狛江を子どもと楽しむ」を合言葉に、昨年11月から同所などで月1回活動している。今後も様々なイベントを催す予定。

7回目の今回は、保育士・ベビーマッサージ講師の渡辺まやさんによる生後2カ月から3歳までを対象にした親子レッスンと、コーヒー付きの交流タイムを行う。参加費500円でバスオトル持参。申し込みは6日回までにInstagramのDM（二次元コード→）またはEメールで氏名と子どもの年齢（月齢）を知らせる。

問い合わせ Mcocotte.komae@gmail.com同会。



積み木で遊ぶ子

